1-2 動物

1-2-1 哺乳類

平成 15 年度　現地調査計画　◇目的・方法・時期・対象範囲◇

●調査の目的

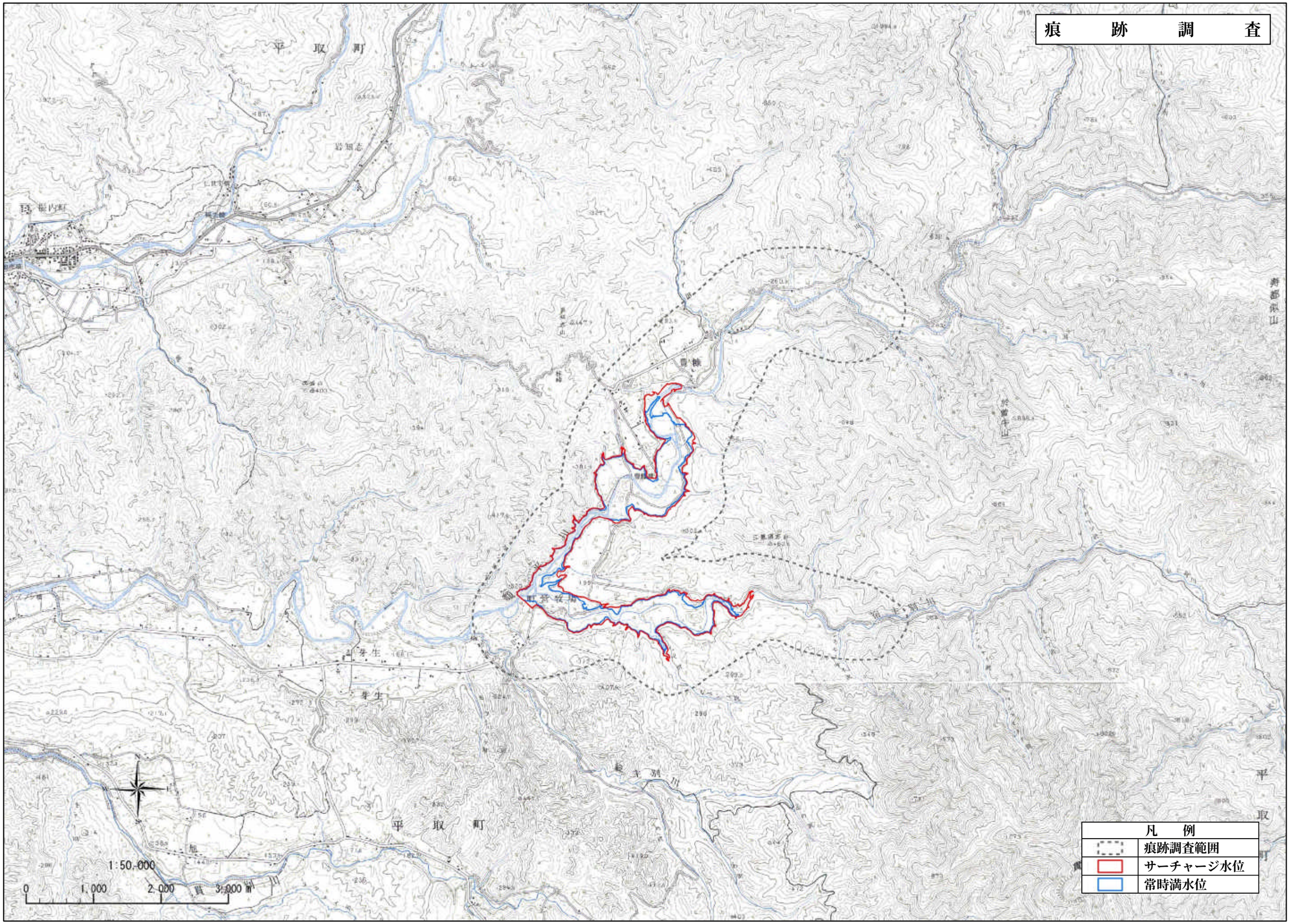
H15 年度調査では、主として湛水予定区域外における哺乳類の生息状況を明らかにするとともに、これまで詳細な把握が行われていなかったコウモリ類について、生息の有無、種の分布状況の把握を行うことを目的としています。ここでは、平成 15 年 8 月以降に行った調査について報告します。

●調査の項目・方法

調査対象	調査項目	調査方法
中型～大型哺乳類	痕跡調査	・主に中・大型哺乳類を調査対象とし、地面に足跡が残り、種の確認が行いやすい積雪期に林道・作業道等の踏査を行い、足跡のほか食痕・糞等の痕跡も確認し、哺乳類の生息状況調査を行った。

●調査日程・実施状況

調査項目	調査時期	備考
哺乳類痕跡調査	平成 16 年 2 月 2～6 日、12～14 日	


痕　跡　調　査
平　取　町
岩知志
振内町
豊糠
於富士山
寿都似山
上芽生
芽生
平　取　町
1:50,000
0
1,000
2,000
3,000
凡　例
痕跡調査範囲
サーチャージ水位
常時満水位

平成 15 年度調査結果　◇確認種・重要種◇

●H15 年度調査　確認種（H15 年 8 月洪水以降）

H16 年 2 月に実施した痕跡調査では、5 科 8 種類の哺乳類が確認されました。

調査方法	科名	種類名	文化財保護法	種の保存法	環境省 RDB 2002	北海道 RDB 2001
痕跡調査	ウサギ	エゾユキウサギ				
	リス	エゾリス				
		エゾモモンガ				
	イヌ	エゾタヌキ				
		キタキツネ				
	イタチ	エゾクロテン			情報不足	
		ニホンイイズナ				
	シカ	エゾシカ				
	5 科	8 種類				

※「エゾクロテン」は「クロテン」の北海道亜種名。

1-2-2 鳥類

平成 15 年度　現地調査計画　◇目的・方法・時期・対象範囲◇

●調査の目的

鳥類については、平成 11 年度～平成 14 年度に事業実施区域周辺を対象として猛禽類調査(シマフクロウ調査を含む)及び一般鳥類調査を実施しています。この結果、湛水予定区域周辺において、希少猛禽類の営巣地が確認されています。

平成 15 年度調査では、主としてこれらの繁殖状況や土地利用の状況等を把握すると共に、ダム事業による影響を把握する他、一般鳥類調査も実施することとします。

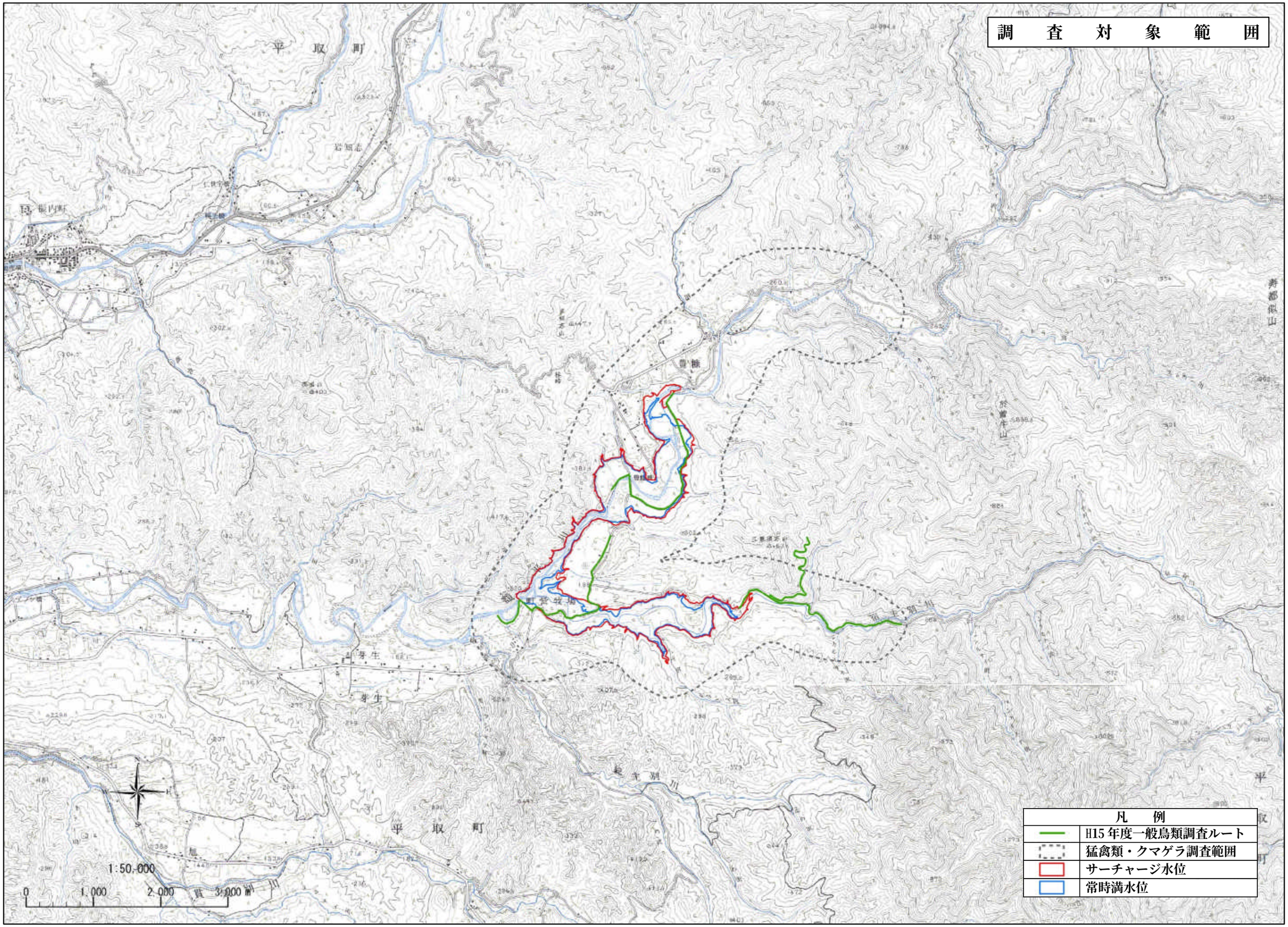
ここでは、平成 15 年 8 月以降に行った調査について報告します。

●調査の項目・方法

調査対象	調査項目	調査方法
一般鳥類	ラインセンサス	・徒歩により調査ラインを踏査し、出現する鳥類の姿及び鳴き声により種を同定し、個体数・確認の種類等を記録した。踏査ラインは森林性・草原性等の環境区分が含まれるように選定した。観察範囲は調査ラインの片側 25m を目安とするが、見通しが良い箇所に関しては適宜広げて観察を行った。調査時期は、①繁殖期前期、②繁殖期後期、③秋の渡り時期、④冬期、⑤春の渡り時期の計 5 回、1 回あたり 2 朝を行った。
	定点調査	・調査定点にとどまり、双眼鏡または望遠鏡を用いて観察を行い出現する鳥類の記録を行った。観察範囲は、広域に観察できるようにラインセンサス調査地沿いに 1～2 箇所の調査定点を設置した。ラインセンサス調査に併せて①～⑤の各期に行った。
	夜間定点調査	・調査定点にとどまり、夜間性鳥類の鳴声の聞き取りによる観察を行い出現する鳥類の記録を行った。観察範囲は、定点調査と同じく、ラインセンサス調査地沿いに 1～数箇所の調査定点を設置した。④冬期を除き、ラインセンサス調査に併せて行った。
猛禽類	行動圏調査	・望遠鏡、双眼鏡により、調査範囲内に出現する猛禽類の飛翔等の行動観察を行い、確認の位置・種類を図面及び野帳に記録した。定点は基本的に各月 9 地点を設置し、定点間での確認状況は随時無線で連絡を取り合い、観察視野を補完しながら行った。
	繁殖状況等確認調査	・調査範囲内で確認された希少猛禽類について、繁殖サイクルに応じて、営巣地の利用状況、繁殖状況等の把握を行った。平成 15 年度調査項目は、①繁殖状況確認調査、②営巣木周辺痕跡調査、③営巣木確認調査、④ハヤブサ調査。
クマゲラ	営巣可能性木調査	・調査エリア内(営巣環境・採餌環境に適したエリア)において毎木調査を実施し、営巣可能な巣穴・採餌痕の確認を行った。調査時期は、繁殖のための活動が活発になり、雪面が安定して痕跡が発見しやすい時期とした。

●調査日程・実施状況（H15 年 8 月洪水以降）

調査対象	調査項目	調査時期	備考
一般鳥類	ラインセンサス 定点調査 夜間定点調査	平成 15 年 11 月 平成 16 年 1 月、3 月(予定)	夜間定点調査は秋(11 月)、春(3 月)を対象とする。
猛禽類	行動圏調査	平成 15 年 9 月～平成 16 年 3 月(毎月 1 回)	継続して実施中。
	繁殖状況等確認調査	平成 16 年 1 月～3 月(計 3 回)	
クマゲラ	営巣可能性木調査	平成 16 年 2 月	


調　査　対　象　範　囲
平　取　町
岩知志
振内駅
振内橋
豊振
於倉牛山
寿都似山
芽生
平　取　町
1:50,000
0
1,000
2,000
3,000
凡　例
H15 年度一般鳥類調査ルート
猛禽類・クマゲラ調査範囲
サーチャージ水位
常時満水位

平成 15 年度調査結果　◇確認種・重要種◇

●H15 年度調査　確認種（猛禽類・一般鳥類　H15 年 8 月洪水以降）

猛禽類調査では、2 科 10 種(ハチクマ･トビ･オジロワシ･オオワシ･オオタカ･ツミ･ハイタカ･ノスリ･クマタカ･ハヤブサ)の猛禽類が確認されています。これらの内、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサに関しては、今年度の繁殖(営巣地)が確認されています。

一般鳥類調査では、報告済みの 2 回の調査時には、30 科 64 種の鳥類が確認されており、その後の秋の調査では 13 科 25 種、冬の調査では 14 科 29 種、年度合計で 31 科 77 種が確認されました。優占種としては、秋はエナガ・ハシブトガラ・ヒヨドリ、冬はハシブトガラ、カケス、ヒヨドリが挙げられます。

なお、平取ダム予定地周辺で確認された猛禽類の各営巣地は、出水後に落巣・倒木などの直接の影響が無かったことを確認しています。また、出水後の状況については、クマタカは巣立ちを確認していますが、オオタカについては幼鳥の確認が無く、状況は不明です。

●H15 年度調査（クマゲラ）

クマゲラ調査では、営巣可能性木 2 本が湛水域外で確認されました。

採餌木は 47 本が確認され、このうち湛水域内には 2 本が確認されました。

●着目すべき鳥類（H15 年 8 月洪水以降）

H15 年 8 月の洪水以降の調査では着目すべき鳥類として、4 科 10 種が確認されました。

科名	種名	文化財保護法	種の保存法	環境省 RDB 2002	北海道 RDB 2001
タカ	ハチクマ			準絶滅危惧	希少種
	オジロワシ	天然記念物	国内希少野生動植物	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧種
	オオワシ	天然記念物	国内希少野生動植物	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧種
	オオタカ		国内希少野生動植物	絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
	ハイタカ			準絶滅危惧	絶滅危急種
	クマタカ		国内希少野生動植物	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧種
ハヤブサ	ハヤブサ		国内希少野生動植物	絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
ライチョウ	エゾライチョウ			情報不足	希少種
キツツキ	クマゲラ	天然記念物		絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
	オオアカゲラ				留意種
4 科 10 種					